色彩学　第３巻　第４号　（2024 年）　201 － 203

全国大会報告

日本色彩学会第 55 回全国大会［福岡]’24 開催報告

Report on the 55th Annual Meeting of the Color Science Association of Japan, Fukuoka 2024

須長 正治　大会実行委員長 / 九州大学大学院 芸術工学研究院
Shoji Sunaga　Chairman of the Executive Committee, Faculty of Design, Kyushu University

１．第 55 回全国大会 [福岡]’24 の概要

2024 年 6 月 29 日（土），30 日（日）に，福岡市南区にある九州大学大橋キャンパスにて，日本色彩学会の第 55 回全国大会 [福岡]’24 が開催された．福岡での開催は，３回目であり，前回は 10 年前の 2014 年，場所は 2014 年と同じく九州大学大橋キャンパス，実行委員長も 2014 年と同じく，須長（九州大学大学院芸術工学研究院）が担当した．

2019 年末からのコロナウィルスのパンデミックにより，全国大会は 2022 年までのしばらくの間，遠隔のみでの開催であったが，前年度の 2023 年度の東京造形大学での第 54 回全国大会から，対面参加もありのハイブリッド形式での開催となった．第 55 回全国大会も，前年に倣い，対面と遠隔参加のハイブリッド形式で開催であった．参加者は，招待した方も含め 246 名であった．

２．総会

例年どおり，全国大会の最初のプログラムとして，第１日目（29 日）の午前に，総会が開催された．総会では，令和５年度の収支報告および監査報告，令和６年度の役員改選など４つの議案が審議され，それらいずれも承認された．議案の最後の第４議案では，久野 覚氏（名古屋大学名誉教授）と佐川 賢氏（産業技術総合研究所名誉リサーチャー）が名誉会員として推薦され，承認された．

さらに，令和５年度の事業報告，令和６年度の事業および収支報告，代議員，そして，支部関係の役員改選，事業／収支計画の報告がなされた．また，表彰関連では，日本色彩学会賞は該当者なしであったが，活動功労賞として坂本 隆氏（産業技術総合研究所）が受賞され，論文賞では，篠田博之氏と西尾匡弘氏が執筆された「差分進化法を用いた非単色光刺激の条件等色における錐体分光感度推定」が受賞された．若手研究者に贈られる研究奨励賞は，「PCCS トーンにおける色の心理的な明るさとあざやかさの統合次元 “Brilliantness” の提案および色の印象次元との対応関係」の論文著者である若田忠之氏（湘南工科大学）が受賞した．

３．高校生の全国大会への参加

第 55 回全国大会では，高校生への学会での発表および参加を働きかけた．昨今，少子化により日本の 18 歳以下の人口が極端に少なくなっている．そのため，大学などでは，受験生や入学者の募集にかなりの労力を割いている．学会にも似たようなところがあり，若手研究者の入会があまりない．そこで，ターゲットを高校生というように極端に若い世代にあて，高校生に「色彩学」を知ってもらうという試みのひとつとして，高校生に全国大会の参加を呼びかけた．また，高校生企画として「高校生向け色彩学チュートリアル」という企画を開催した．

３件の高校生以下の研究発表の申し込みがあり，登壇者を含め 10 名の参加者の申し込みがあった．参加者数は，当初の目論見より大変少ない人数であったが，ほぼないと予想していた発表が３件であったことは，参加者の少なさを帳消しにするくらい喜ばしいことであった．

また，「高校生向け色彩学チュートリアル」では，色彩学入門として，須長が色彩学についてのミニレクチャーを行い，さらに，社会での色彩学の必要性を示すために，菊地久美子氏（株式会社資生堂みらい開発研究所）に「企業における色彩学の役割：化粧品の研究開発における色彩の重要性について」，髙畑雅一氏（元株式会社竹中工務店，大阪工業大学非

常勤講師）に「絵や色彩は生まれつきの才能だけではない：建築設計コンペやプレゼンテーション，アート作品制作などの業務を担当した者の報告」という２つの講演を行っていただいた．

この高校生向け企画の経緯や内容については，日本色彩学会誌「色彩学」の３巻３号（2024 年 8 月 20 日発行）特集「Welcome to the World of Color Science: 色彩学の体験授業・導入教育事例」の９番目の解説として，須長が「高校生向け色彩学チュートリアル講演のデザイン」というタイトルで書かせていただいた．もし，興味があれば，そちらをご一読いただければと思う．

４．研究発表

今回の全国大会では，高校生以下の研究発表の３件も含め，47 件の口頭発表，28 件のポスター発表の計 75 件（タイから４件，中国から２件）の一般研究発表が行われた．この 75 件の内，カラーデザイン作品発表は２件であり，相変わらず，作品発表の少なさは，今後の検討課題であることを実感した．また，今回，発表奨励賞審査対象の申込件数が 20 件で，学生の発表が多く見受けたれた．これらの学生が今後とも色彩学会の会員であり続けてくれるような方策の検討が必要であろう．

本大会での口頭発表は３会場に分かれての実施となったが，なるべく参加者の関心傾向が被らないようなプログラム編成には，苦労した．もっとゆっくり多くの研究発表を聞きたいものだと思う．

５．オープンカラーラボ

オープンカラーラボは，研究室紹介であり，以前から日本色彩学会関西支部大会などで開催してきた企画である．本大会では，高校生の参加もあり，色彩を研究できる大学や研究室を紹介するという意図もあり，本大会で企画実施した．参加はポスターの掲示と PDF ファイルの配布という２つの方式で行った．12 研究室にポスターの掲示を行ってもらい，そのうち７研究室には，研究室紹介の PDF ファイルも用意いただいた．協力していただいた研究室には，感謝申し上げます．

６．企業展示

ゲルハルトジャパン株式会社，コニカミノルタジャパン株式会社，株式会社セルシステム，株式会社 NAMOTO，日本色研事業株式会社，日本電色工業株式会社，ビックケミー・ジャパン株式会社，株式会社テツタニ，株式会社分光応用技術研究所の方々に企業展示に参加していただけた．

７．本部企画「文部科学大臣表彰受賞記念講演」

日本色彩学会の推薦により，日本色彩学会名誉会員の富永昌二氏（大阪電気通信大学名誉教授）が令和６年度文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞された．この名誉な吉報を受け，本大会では，日本色彩学会の本部企画として，「文部科学大臣表彰受賞記念講演」が開催された．日本色彩学会が推薦しての受賞は初めてということであった．

この講演は，全国大会参加者以外にもオープン参加として開催されたため，会場では，色彩学会員ではない須長の職場の同僚の先生の顔も見ることができ，研究内容への関心度の高さを伺うことができた．「富

永先生，おめでとうございます.」これが最初でしたが，最後にならないように，今後とも，精進し，学会全体で，「色彩学」研究を盛り上げて行かなければならないとも感じた.

８．特別講演「anno lab のいろいろ」

特別講演は，毎回，全国大会の目玉になる講演である．本大会は，九州大学の芸術工学部がある九州大学大橋キャンパスで開催されたということもあり，芸術工学部の卒業生をお呼びしての講演を企画した．そこで，anno lab（https://annolab.com/）というクリエイト活動をしている会社の代表取締役である藤岡 定氏に講演をお願いした．藤岡 定氏は，九州大学工学部卒業で，その後，大学院の修士課程から大橋キャンパスにある芸術工学専攻に入学し，学生時代からの同僚や仲間たちと様々な作品を制作してきた．また，修士課程修了後には博士課程まで進み，博士（芸術工学）の学位も取得されている．anno lab は，このような活動を一緒にやってきた仲間たちと立ち上げた会社である.

講演では，anno lab で制作してきた多くの作品を紹介してくれた．どの作品も，科学の知見を基礎におき，工学的な技術を使って，「遊び心」を表現したような作品であり，参加者も興味を持って聴講してくださったのではないかと思う．この特別講演もオープン参加であったため，色彩学会員外の方にも多く参加していただいた.

９．交流会

大会１日目のプログラムが終了後，大橋キャンパスのデザインコモン１階にて，交流会を行った．今回の交流会は，高校生も参加していることから，予め酒類の提供はないことを参加者に伝えていたものの，82 名の参加があった．交流会に参加した高校生は，高校生どうしで，情報を交換するなど，有意義な時間を共有していたように見えた.

10．パネルディスカション「色覚多様性をめぐるポリローグ」

２日目（30 日）の午後から，本大会を締め括る企画として，「色覚多様性をめぐるポリローグ」というパネルディスカションを開催した．平松千尋氏（九州大学大学院芸術工学研究院）にこのパネルディスカションのコーディネーターをお願いし，パネラーには，若手で，色彩学会からは少し距離のある馬場靖人氏（早稲田大学），伊藤潤一郎氏（新潟県立大学），黒坂祐氏（画家），村谷つかさ氏（筑紫女学園大学）の４名の方をお招きした.

馬場氏は『「色盲」と権力―「言語」の観点から―』，伊藤氏は『色のクオリアと証言』ということで，哲学の分野から「色盲」についての歴史的な経緯も含め「色覚多様性」をどう考えるのかということについての講演があり，黒坂氏からは「色弱の絵画」という表現について，さらに，村谷氏からは，今後の社会での「色覚多様性」についての課題についての講演がなされた．最後に，会場の参加者の含め，討論が行われた.

11．式典

第 55 回全国大会の最後のプログラムとして，式典が行われた．式典では，総会で承認された名誉会員，さらに，活動功労賞，論文賞，研究奨励賞の表彰が行われた．そして，昨年度に新設された賛助会員功労賞には，今年度，一般財団法人日本色彩研究所，富士フイルム株式会社，一般社団法人日本流行色協会，株式会社村上色彩技術研究所，DIC カラーデザイン株式会社の５団体に贈られた.

また，学生を含めた若手研究者が対象の発表奨励賞は「機械学習を用いたハーマングリッド錯視の検証」鈴木祐翔氏（千葉大学大学院），「色再現における原色の半値幅が二色覚と異常三色覚の色名応答に与える影響」井下大樹氏（九州大学大学院），「肌の色変化が顔の印象に与える影響の異文化比較」何元元氏（千葉大学大学院），「色覚の主観性と多様性を学ぶ色彩教育プログラム提案に向けた教材の制作」藤井俊貴氏（九州大学大学院）の４名が受賞した．今後の活躍を期待しております．そして，本大会に研究発表をしてくださった高校生（高専を含む）以下の発表者には，実行委員長名で，発表特別賞が送られた.

式典の最後に，来年度の全国大会は山内泰樹氏（山形大学）が実行委員長で，山形大学米沢キャンパスで開催されることが発表された．10 年前，九州大学大橋キャンパスで開催した 2014 年の次の年の 2015 年の全国大会が山形大学米沢キャンパスであったことが思い出される．その時の実行委員長も同じである.

何はともあれ，第 55 回全国大会 [福岡]'24 を無事に終えることができた．これも，研究発表をしてくださった会員の皆様，さらに，会員，一般を問わず全国大会に参加してくださった皆様のご協力のおかげであります．ここに感謝の意を表したいと思います.

来年も，米沢で皆様にお会いすることができれば，幸いです.